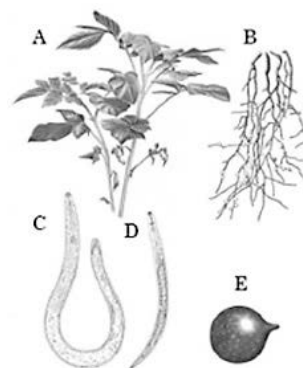


4 ジャガイモシロシストセンチュウ国内発生確認！

馬鈴しょの根に寄生する最重要害虫シストセンチュウのうち、国内では未発生だったジャガイモシロシストセンチュウ（以下記載「シロシスト」）が、平成27年7月、網走市内で栽培された馬鈴しょ（ジャガイモシスト抵抗性品種「コナユキ」「サクラフブキ」）畑で確認されました。

【1】これまでのジャガイモシストセンチュウとの違いは？

- ① シストの色彩は褐色、大きさもほぼ同じ
外観での識別は難しい
- ② ジャガイモシスト抵抗性品種にも寄生する可能性がある
シロシストに対抗出来る馬鈴しょ品種は現在、未開発



ジャガイモシロシストセンチュウ
A: ジャガイモ地上部の被害
B: シストが寄生した根
C: 雄成虫 D: 幼虫 E: シスト
図9 ジャガイモシロシストセンチュウ
(農水省HP)

【2】シロシスト対策は？

これまで行われてきたジャガイモシストと同様の侵入防止策が求められます。ただ、1975年のジャガイモシスト発生確認後、発生面積は毎年拡大しており、2010年には道内で約1万haと馬鈴しょ作付面積の2割を占める勢いとなっています（図10、図11）。

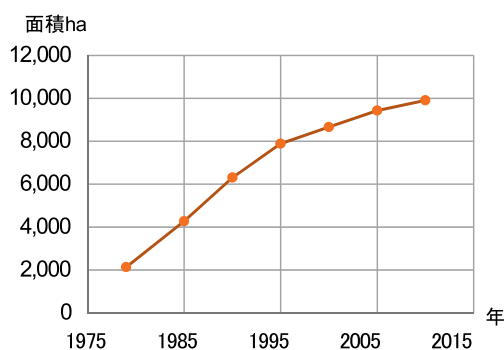


図10 北海道内ジャガイモシスト発生面積の推移

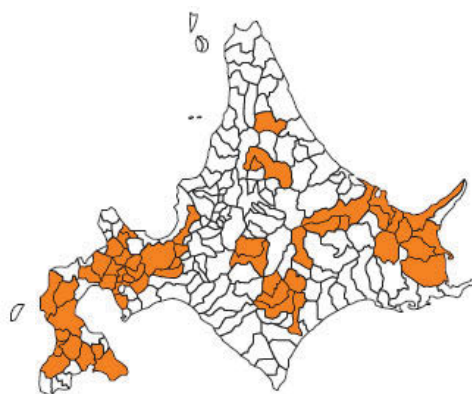


図11 ジャガイモシストセンチュウ発生市町村
(平成27年3月末) 図10・図11 北海道農政部調べ

〈徹底したまん延防止策・防除策を！〉

直径0.6mm程度の小さなシストは風や水によっても移動しますが、最も注意すべきは、土壌移動による「人為的な拡散」です。まん延防止、早期発見、防除を徹底しましょう。

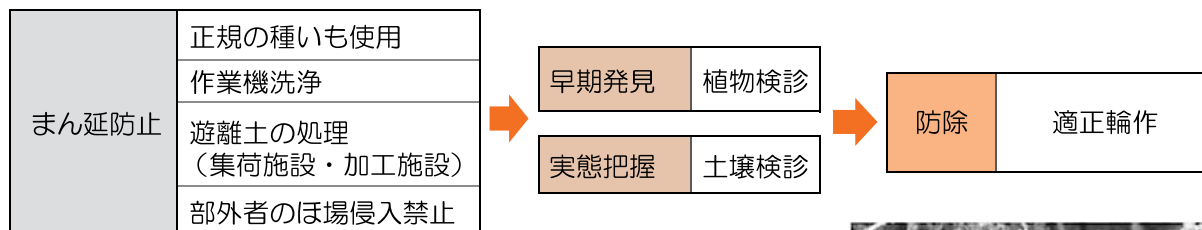


図12 まん延防止並びに防除策

ジャガイモシスト発生初期でも侵入確認が可能な方法として「植物検診」があります。

7月中旬の観察適期に、未発生地域の馬鈴しょ栽培ほ場の根を確認し、シストのまん延を最小限に止めて産地を守ることが重要です。

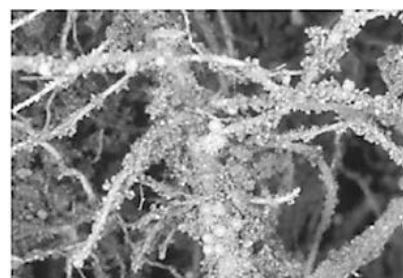
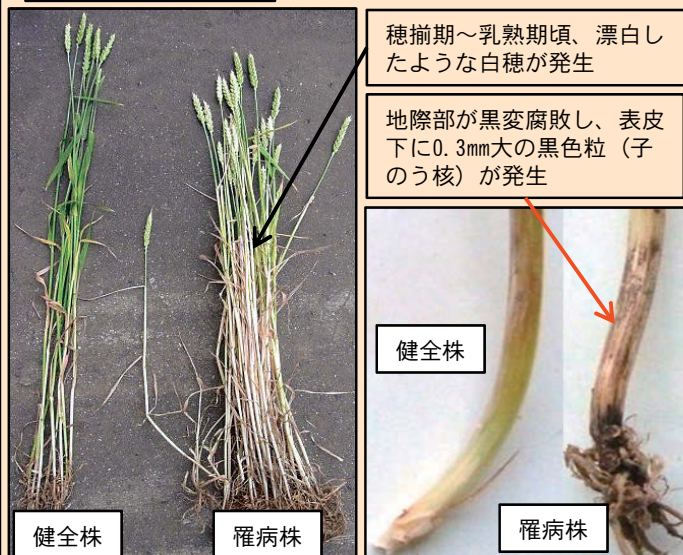


図13 根に付着するジャガイモシスト

5 平成27年度畑作物の病害

平成27年度に発生が見られた病害を紹介します。

○小麦立枯病



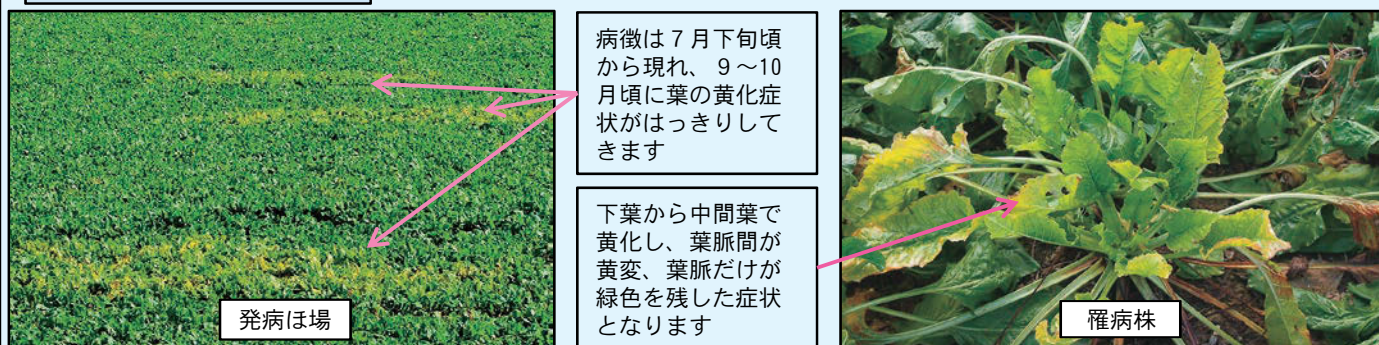
- ・連作1～2年で発生し、土壌伝染する連作障害です。
- ・菌は根から侵入して、罹病株の組織内で生存します。
- ・発病株は草丈が低く、早期に枯れ上がり、容易に引き抜けます。
- ・発病すると一穂粒数、干粒重が減少します。
- ・少肥、全層施肥、リン酸欠乏、カリウム欠乏のいずれも発病を助長します。
- ・麦類の連作を避け、エンバク、豆类、てん菜、馬鈴しょ等の非寄主作物との輪作で菌密度が低下します。

○馬鈴しょの腰折症状



- ・てん菜の根腐病、大豆の根腐病、ブロッコリーの株腐病と同じ原因菌（*Rhizoctonia solani* AG-2-2 IV）です。
- ・茎の地際部付近がくさび形に腐敗して折れ、やがて株全体が枯死します。
- ・前作で上記のいずれかが発病したほ場で寄主作物の作付けは避けてください。

○てん菜西部萎黄病



- ・アブラムシにより伝搬されるウイルス病です。種子伝搬、土壌伝搬はしません。
- ・発病すると糖度が減少します。
- ・茎葉部や掘り残しのてん菜をほ場に放置せず、搬出または土中に埋めてください。
- ・アブラムシ防除を育苗ポットかん注を基本として、補助的に茎葉散布をしてください。

*引用および参考：一般社団法人 北海道植物防疫協会. 北海道病害虫防除提要. 2014